

平成30年度第2回公立高等学校配置計画  
地域別検討協議会における主な意見及び道教委の考え方

北海道教育庁学校教育局高校教育課

平成30年度第2回公立高等学校配置計画地域別検討協議会 開催日程一覧

会場	開催日	開催時間	開催場所
空知南	平成30年7月11日（水）	10時00分～11時30分	岩見沢市文化センター
空知北	平成30年7月11日（水）	14時20分～16時30分	たきかわ文化センター
石 狩	平成30年7月27日（金）	14時00分～16時10分	札幌ホワイトビル
後 志	平成30年7月17日（火）	13時20分～15時30分	後志合同庁舎
胆振西	平成30年7月19日（木）	18時30分～20時00分	室ガス文化センター（室蘭市文化センター）
胆振東	平成30年7月19日（木）	13時30分～15時40分	苫小牧市教育・福祉センター
日 高	平成30年7月10日（火）	13時40分～15時10分	日高合同庁舎
渡 島	平成30年7月23日（月）	14時20分～16時30分	渡島合同庁舎
檜 山	平成30年7月18日（水）	13時00分～15時10分	檜山合同庁舎
上川南	平成30年7月30日（月）	9時20分～11時30分	上川合同庁舎
上川北	平成30年7月30日（月）	14時50分～17時00分	名寄市駅前交流プラザ「よろーな」
留 萌	平成30年7月23日（月）	13時50分～16時00分	苫前町公民館
宗 谷	平成30年7月20日（金）	11時20分～13時30分	稚内総合文化センター
林-ㇿ中	平成30年7月19日（木）	14時00分～16時10分	端野町公民館
林-ㇿ東	平成30年7月19日（木）	10時00分～11時30分	オホーツク合同庁舎
林-ㇿ西	平成30年7月18日（水）	13時00分～15時10分	ホテルサンシャイン
十 勝	平成30年7月26日（木）	13時30分～15時40分	とかち館
釧 路	平成30年7月25日（水）	13時30分～15時40分	釧路センチュリーキャッスルホテル
根 室	平成30年7月31日（火）	14時40分～16時10分	中標津町役場

平成30年度第2回公立高等学校配置計画地域別検討協議会 参加者数一覧

会場 (学区)	参加者											傍聴者 F	合計 G(E+F)	アンケート 提出者	
	行政 関係者 A	学校関係者				計 B	PTA関係者			計 C	経済団 体関係 者計 D				計 E (A+B+C+D)
		小学校	中学校	高等学校	小学校		中学校	高等学校							
空知南	10	3	6	12	21	4	4	6	14	5	50	13	63	23	
空知北	19	4	10	9	23	3	7	5	15	3	60	15	75	27	
石狩	6	0	12	43	55	6	7	8	21	1	83	7	90	44	
後志	25	10	17	17	44	2	1	4	7	1	77	3	80	30	
胆振西	9	4	6	12	22	3	2	2	7	1	39	2	41	23	
胆振東	10	3	5	13	21	1	1	2	4	1	36	7	43	18	
日高	7	4	7	7	18	1	2	2	5	1	31	1	32	19	
渡島	15	10	10	25	45	5	5	4	14	4	78	3	81	40	
檜山	8	6	7	4	17	0	4	0	4	2	31	3	34	23	
上川南	16	10	14	24	48	0	0	5	5	2	71	4	75	36	
上川北	9	6	8	8	22	1	0	2	3	2	36	3	39	26	
留萌	14	6	7	5	18	2	3	4	9	3	44	6	50	27	
宗谷	10	10	8	8	26	1	0	3	4	3	43	3	46	34	
オホー ツク中	16	5	6	13	24	1	6	7	14	1	55	5	60	25	
オホー ツク東	7	1	5	6	12	0	3	4	7	2	28	3	31	20	
オホー ツク西	9	4	8	5	17	0	2	2	4	3	33	4	37	21	
十勝	27	17	15	24	56	11	12	6	29	4	116	23	139	52	
釧路	10	5	4	15	24	2	4	8	14	3	51	9	60	32	
根室	8	3	4	7	14	1	1	4	6	2	30	4	34	17	
合計	235	111	159	257	527	44	64	78	186	44	992	118	1,110	537	

主な意見及び道教委の考え方

■ 高校教育全体の充実	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
① 地域の特色を生かした高校づくりを期待している。生徒が社会に出てから、対応できる指導をお願いしたい。	<p>○ 社会の変化や生徒の多様な学習ニーズなどに対応するため、学校や地域の実情に応じて、総合学科や単位制などの多様なタイプの高校づくりを進めるとともに、職業学科の配置の検討を行うなどして、活力と魅力のある高校づくりに取り組みます。</p> <p>○ これまでの施策や各高校の取組の成果と課題、国の動向等を踏まえて、社会の変化に対応した高校教育を推進します。</p> <p>○ 地域の発展に主体的に貢献できる人材を育成する視点に立って、確かな学力や社会的・職業的自立に向けた能力を育成できるよう、地域の人材や自然、産業などの教育資源を取り入れた教育活動を行うなど、地域の特色を生かした活力と魅力のある高校づくりに取り組みます。</p> <p>○ 今後とも、生徒の多様な学習ニーズに応え、学校選択幅の拡大を図るため、多様なタイプの高校のそれぞれの特色を踏まえながら、地域特性を生かし、これまで以上に個性あふれる高校づくりとなるよう取り組みます。</p>
② 地域の特性や地域のニーズに耳を傾けながら地域の実態に合った高校づくりを進めていただきたい。	
③ 特色ある教育活動や学習内容の充実など、高校進学者のニーズに合った高校づくりを進めるとともに、高校の魅力などを生徒、保護者に充分周知することが大切である。	
④ 特色あるカリキュラムにより多様な生徒の育成に努めてほしい。	

■ 新しい高校づくりなどの推進	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p><b>【推進・充実】</b></p> <p>① 今後も単位制の導入など多様なタイプの高校づくりを推進してほしい。</p> <p>② 多様な学習ニーズや学校選択幅の拡大を図っていく方針には賛成である。地域特性を生かした、これまで以上に個性あふれる高校づくりは、本当に重要なことである。</p> <p>③ 教員が十分に配置され、選択科目が多く開設される単位制や総合学科は効果があると思う。</p> <p>④ 時代の変化に合わせた多様なタイプの高校づくりは大切であると思う。</p> <p>⑤ 今後の少子化の進行を踏まえると、多様なタイプの高校づくりと各高校の特色づくりがますます重要になってくると思う。</p>	<p>○ 生徒の多様な学習ニーズに応じて学校を選択できるよう、学校・学科の配置状況等を考慮し、地域の要望も伺いながら、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望等に応じて普通教科や専門教科から必要な科目を選択して学習できる総合学科</li> <li>・進路希望等に応じて普通教科を中心に必要な科目を選択して学習できる普通科単位制</li> <li>・進路希望等に応じて普通教科のほか専門教科においても必要な科目を選択して学習できる専門学科単位制</li> <li>・6年間の計画的・継続的な教育活動を行う中高一貫教育</li> </ul> <p>の多様なタイプの高校づくりや地域の特色を生かした魅力ある高校づくりに努めます。</p> <p>○ 多様なタイプの高校において、それぞれのタイプの趣旨を生かし、具体的な教育目標を立て、その実現に向けて創意工夫した特色ある教育活動を展開します。</p> <p>○ 今後とも、生徒の多様な学習ニーズに応え、学校選択幅の拡大を図るため、多様なタイプの高校のそれぞれの特色を踏まえながら、地域の特色を生かして、これまで以上に個性あふれる高校づくりとなるよう取り組みます。</p>
<p><b>【成果と課題】</b></p> <p>⑥ 多様なタイプの高校について、成果と課題を明確にし、道民、学校関係者に明確に示す必要がある。</p>	
	<p>○ 『<a href="#">新たな高校教育に関する指針</a>』<a href="#">検証結果報告書</a>』において、多様なタイプの高校における主な成果や課題を次のとおり取りまとめています。</p>

<p>⑦ 総合学科設置校や単位制高校がその周辺地域においてしっかりと役割を果たしているか、様々な角度から評価・検証する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総合学科 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の大学進学率が向上するとともに、無業の生徒の比率が減少しています。</li> <li>・総合学科の趣旨を踏まえるとともに、地域に根ざした特色ある教育活動が推進されていますが、郡部の総合学科では中学校卒業者数の減少などから小規模化が進んでおり、系列の見直しを行うなど、教育課程の工夫により生徒の多様な学習ニーズに対応している状況があります。</li> </ul> </li> <li>○ 普通科単位制 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の大学進学率が向上するとともに、無業の生徒の比率が減少しています。</li> <li>・望ましい規模を下回っている高校も見られ、活力ある教育活動を維持する観点からも学級数の維持が課題となっています。</li> </ul> </li> <li>○ 普通科フィールド制 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の大学進学率が向上するとともに、無業の生徒の比率が減少しています。</li> <li>・開設できる科目数に限りがあり、他の普通科高校との差別化を図ることが難しいなど、当初の目的であった普通科高校の特色づくりには、必ずしも結びついていない状況があります。</li> </ul> </li> <li>○ 中高一貫教育 <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携型中高一貫教育校を卒業した生徒の大学進学率や無業の生徒の比率については、大きな変動はありませんが、一体型については大学進学率が上昇しています。</li> <li>・中学校卒業者数の減少などにより、高校の1学年の学級数が1学級となった高校においては、教員数の減少により中学校と連携した教育活動が十分に行えないなどの理由から、地元市町村と協議の上、中高一貫教育を終了した地域もあります。</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>【広報・周知】</b></p> <p>⑧ 様々な高校の形態があるが、中学生や小学生に浸透していないのではないか。細かく周知する方法を考えなければならぬと感じる。</p> <p>⑨ どの学校に行くのとどのような職種につけるのか、どのように未来が広がるのかを子供たちや保護者に分かりやすく示してほしい。</p> <p>⑩ 学校の新設や学科転換の際には、中学校の進路指導の面からも少しでも早く説明するよう努力してほしい。</p> <p>⑪ 高校がもっと特色をPRすべき。いろいろな人が関われる高校づくりが大切。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <a href="#">多様なタイプの高校を紹介したパンフレット</a>を毎年度作成し、市町村教育委員会や中学校等へ配付するとともに、高校教育課のホームページに掲載しています。</li> <li>○ 平成29年12月には、<a href="#">総合学科紹介パンフレット</a>を作成し、高校教育課のホームページに掲載するとともに、中学校に配付し、総合学科における学習内容について周知しています。</li> <li>○ また、道教委の<a href="#">広報誌「ほっとネット」</a>を活用し、より多くの道民の方々に、多様なタイプの高校の特色等について周知しています。</li> <li>○ <a href="#">多様なタイプの高校の教育内容を紹介したビデオ</a>を作成し、高校教育課のホームページに掲載するとともに、ビデオを紹介するチラシを市町村教育委員会や中学校へ配付しています。</li> <li>○ 第1回の地域別検討協議会では、学区内の高校の特色ある教育活動や取組を紹介する資料を配付し、PRに努めています。</li> <li>○ 各高校では、ホームページや学校案内などのパンフレットの作成・配付のほか、中学生を対象とした体験入学において、積極的に情報提供を行っています。</li> </ul> <p>注： 道内公立高等学校のホームページは次のURLか</p>

	<p>らたどれます。  <a href="http://www.hokkaido-c.ed.jp/kouritsu/index.html">http://www.hokkaido-c.ed.jp/kouritsu/index.html</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学科転換後の学科名や学習内容等については、各学校において実施する中学生やその保護者、中学校の教員などを対象とした学校説明会や体験入学において説明するとともに、新たな学科名を記載した学校案内を作成・配付するなど情報提供に努めています。</li> <li>○ 今後とも、中学生や保護者の方々が、多様なタイプの高校の特色等を一層理解できるよう、積極的な情報提供に努めます。</li> </ul>
<p><b>【設置・導入】</b></p> <p>⑫ 今後の時代を見据えた多様なタイプの高校づくりが進められているのは良い事だと思う。</p> <p>⑬ 学び直しや、友人関係をうまく構築できない生徒の増加もあり、普通科のみならず、職業学科に関しても多様なタイプの学校づくりが必要になってきているのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会の変化や生徒の多様な学習ニーズなどに対応するため、学校や地域の実情に応じて、総合学科や単位制などの多様なタイプの高校づくりを進めるとともに、活力と魅力のある高校づくりに取り組みます。</li> <li>○ 生徒が自己の生き方を考えながら、「分かる喜び」や「学ぶ意欲」を高めるための新たな特色ある高校づくりについて、他都府県の事例なども参考にしながら、検討します。</li> </ul>

■ 地域連携特例校	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p><b>【推進・充実】</b></p> <p>① 地域連携特例校としての魅力を発信する必要があると思う。</p> <p>② 地域連携協力校は、時間的な効率を考えれば、同一管内の学校とする必要はないのではないか。近隣の学校間で交流が図れるのであれば、その在り方を考えていくべきではないか。</p> <p>③ 地域連携特例校の活動を通して、小規模校の時代に合った可能性を伸ばしていきたいと思うし、それが望ましい規模の検討に少しでもつながっていけば良いと思う。道教委としても小規模校への支援を進めて、北海道らしい高校教育の在り方をこれまで以上に検討してほしい。</p> <p>④ 地域連携特例校など地域の状況を考えた取組は良いと思うが、教育の質が低下しないようお願いしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い第1学年1学級の高校を地域連携特例校として、協力校からの出張授業などにより、教育環境の維持向上を図ります。</li> <li>○ 地域連携特例校においては、協力校からの出張授業のほか、協力校との間で生徒会の交流や部活動の合同実施、長期休業期間中における協力校の進学講座への参加など、両校が連携した教育活動を行うなどして、教育課程の充実に努めています。</li> <li>○ 地域連携特例校の教育活動の充実を図るため、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業・講習や生徒間交流、教員研修等での遠隔システムの積極的な活用</li> <li>・ 学校設定科目の開設など、特色ある教育活動の一層の推進</li> <li>・ 協力校や他の地域連携特例校、近隣校等との学校間連携の促進</li> <li>・ 地域の教育資源や小中学校等、地域との連携の充実</li> <li>・ 学校の魅力の発信</li> </ul>           などの取組を推進します。         </li> </ul>
<p><b>【教育環境の維持・向上】</b></p> <p>⑤ 地域連携特例校は教員数が少ない中で、子供たちの確かな学力の育成や特色ある教育活動ができる環境をつくっていただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域連携特例校に対しては、道単独での教員加配を行うとともに、協力校からの出張授業などにより教育環境の充実に努めています。</li> <li>○ 地域連携特例校と協力校の取組について、毎年度成果や課題を調査し、把握した課題については速やかに対処するとともに、地域連携特例校・協力校連携研究協議会において、情報交換や研究協議を行うなど、支援の充実に努めています。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 意欲のある管理職やベテラン教員、ミドルリーダーを戦略的に配置するなど、教員配置の充実を図ります。</li> <li>○ 今後とも、生徒の学力向上や進路希望の実現に向けた取組を充実し、地域連携特例校の教育環境の維持向上に努めます。</li> </ul>
<p><b>【遠隔授業】</b></p> <p>⑥ 小規模校においては、ICTを活用した授業展開をもっとスピード感をもって研究していただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成25年度から4年間、離島の高校や小規模校の教育水準の維持・向上を図るため、映像や音声を同時双方向で配信できるシステムを活用した遠隔授業における単位認定の在り方等の研究開発に取り組みました。</li> </ul>
<p>⑦ 地域連携特例校では遠隔授業が進められている。ICT等を活用しながら、生徒それぞれが望むことを学んだり、単位修得を可能とするなど、新たな形を求めていく必要があるのではないか。</p>	<p>また、平成29年度から新たに4年間、対面による授業時数を緩和した遠隔授業の単位認定の在り方等についての研究開発に取り組んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国においては、本道の研究開発の成果等も踏まえ、平成27年4月に学校教育法施行規則の改正を行い、遠隔授業の単位認定を可能としたところであり、今後とも、生徒の理解力に応じた個別支援や授業者と受信側のサポート教員の連携といった課題の改善のほか、遠隔授業に関わる教員の指導力向上のための研修など、遠隔授業の充実に向けた取組を進めます。</li> </ul>

■ 小規模校への支援	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p><b>【推進・充実】</b></p> <p>① 北海道の地理的条件を踏まえ、地域連携型の小規模校を積極的に整備されることを望む。生徒数や標準法に照らし合わせただけの機械的な配置は避け、地域に根ざした高校づくりをすることは、大変成果があると考え。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小規模校において、確かな学力や職業観・勤労観、地域産業を担う実践的な能力が育まれるよう、学力向上や環境教育などの研究指定に加え、平成27年度から3年間「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」を実施し、その成果の普及を図っているほか、1学年1学級の高校に対する道単独の教職員の加配を措置しています。</li> </ul>
<p>② 小規模校は教員数が少ないため、多様な科目の開設や部活動などの生徒のニーズに寄り添うことは大変である。教員配置の枠を広げていただくことを望む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 近隣の道立高校や特別支援学校が相互に教員を派遣し、英語や数学の少人数指導により教育課程の充実を図る道立学校間連携にも取り組むなど、小規模校においても生徒の多様な学習ニーズに対応できる教育環境の確保に努めます。</li> </ul>
<p>③ 小規模校でも学習ニーズに対応していくことが必要であり、生徒の学習機会が平等であってほしい。子供たちが著しく不利益を受けないような学習環境にしてほしい。できれば、道教委として特色ある学校に対して加配を含めた支援をお願いしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ また、個に応じた指導の充実や新たな教育課題に対応するための定数措置の拡充について、国に対して引き続き要望します。</li> </ul>
<p>④ 小規模校ならではの特色ある教育活動の展開など、魅力づくりを進めてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小規模の総合学科校では、学級数が減少しても生徒の多様な学習ニーズに対応するため、教員配置の工夫や、外部講師の効果的な活用を行うとともに、地域の特性や生徒の実態等を踏まえた系列や開設科目の見直しを行うなど、教育環境の改善・充実に取り組んでいます。</li> </ul>
<p>⑤ 学校規模が小さくなり教員数が少なくなると総合学科の系列を維持することが困難となるなど課題があると考え。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小規模となった総合学科等における教育活動の改善・充実を図るため、「小規模総合学科校等の高校魅力化推進事業」を実施しており、確かな学力の育成等に向けた指導方法の改善のための研修や、地域の自然や産業等の教育資源を活用した取組を行っています。</li> </ul>

■ 高校配置計画の策定	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p><b>【基本的な考え方】</b></p> <p>① 少子化が加速度的に進行しており、これに伴う配置計画について理解を深めることができた。学校の統合や募集停止に関わって、地域の思いや願いを十分に受け止めながら進めるとともに、同時に速やかな対応が求められると考える。</p>	<p>○ 高校配置計画は、高校進学希望者数に見合った定員を確保するとともに、教育水準の維持向上を図る観点から、中学校卒業生数や生徒の進路動向、学校規模、欠員の状況などを総合的に勘案し、地域の実情などを考慮しながら策定しています。</p> <p>○ 中学校卒業生数が減少する中、活力ある教育活動を展開する観点から、再編整備などを含めて高校の配置を検討していますが、本道は広域で、それぞれの地域事情も異なることから、都市部と郡部の違いや地域ごとの特性などを十分考慮した特色ある高校づくりに取り組むとともに、適切な高校配置に努めます。</p>
<p>② 市外に子供たちが進学することを前提として考えなければいけない時代になっており、それを前提とするなら、子供の選択肢は確保されていると思う。</p>	
<p>③ 学区の学力の維持のため定員調整を進めていただきたい。</p>	
<p>④ 少子化に伴う高校進学者数の減少で、高校の配置を見直すことは仕方ないと理解するが、地域における高校の役割や生徒の通学に関することなどを考慮して、現状維持していただきたい。</p>	
<p>⑤ 学級減を進めることは難しいことだが、必要だということも初めて理解できた。子供たちのことを考えて進めてほしい。</p>	
<p>⑥ 各市町村が地元で高校を残したいという思いと、中学校卒業生の進路希望がかみ合わない点は難しい問題だと感じた。</p>	
<p><b>【策定方法・示し方】</b></p> <p>⑦ 配置計画は、中学生の時点ではなく、小学校時代から目標となる高校を選択できるよう、5年間程度のスパンでの計画となるようにしてほしい。</p>	<p>○ 配置計画の策定に当たっては、地域別検討協議会において、3年間の具体的な計画と、その後の4年間の将来的な配置の見通しをお示しし、地域の方々の御意見を伺っているほか、地元での検討の場などにおいても道教委の考え方などを説明し、御意見をいただいています。</p> <p>○ 今後とも、中学校卒業生数の状況を踏まえた上で、本道の広域性や地域の実情などを考慮し、地域の方々の御意見を丁寧に伺いながら検討を進めます。また、関係市町村に対して、配置計画の検討に必要な情報を早期に提供するなど、地域での議論が一層深まるよう努めるとともに、こうした地域での議論を踏まえ、高校が地域で果たしている役割など、それぞれの地域ごとの実情等を十分考慮しながら、適切な高校配置になるよう努めます。</p> <p>○ また、道教委としては、地域を支える産業の担い手育成などに取り組んでいます。今後とも、本道の発展に主体的に貢献できる人材を育成するため、地域の自然環境や人材などの教育資源を活用しながら、特色ある高校づくりに取り組むとともに、地域ごとの特性や実情、高校に対する地域の期待なども十分考慮し、配置計画を策定します。</p>
<p>⑧ 地域にとって高校があるということは、卒業後の地元就職などに関わる重要な要素。通学距離や通学補助などを考慮して配置計画を立案し、特に職業学科は残してほしい。保護者の収入によって教育機会が制約されてはならない。</p>	
<p>⑨ 学級減は理解するが、対象とする高校はもっと広く意見を聞いて決めてもらいたい。</p>	
<p>⑩ 小規模校や職業校ならではの良さがあると思う。学校の考え方を尊重した配置をしてほしい。</p>	
<p>⑪ 学級減は生徒数の減の観点からやむを得ないと考えているが、地域に1校しかない高校の募集停止においては慎重であってほしい。</p>	
<p>⑫ 生徒減少に歯止めが掛からないが、地域や通学困難な生徒、家庭の経済状況を考えてほしい。今後も、高校、小中学校、教育委員会などの地域と十分な協議を行った上で、配置計画を策定していただきたい。</p>	
<p>⑬ 配置計画は、道内の人口減少問題を含め、今後も継続して検討すべき事項である。広く意見を集めて、適切な対応をお願いしたい。</p>	



<p>⑭ 生徒が減少するという事は、将来の納税者が減ることにつながる。きめ細かな指導や少人数の学級編制などで若者を育てるという意識が、行政や教育関係者だけでなく、高校を持つ町村の住民にも必要だと思う。</p>	
<p>⑮ 長期にわたって計画を提示されているので、計画的に進路指導を進めることができる。</p>	
<p><b>【再編等（地域の実情等）】</b></p> <p>⑯ 高校配置の基礎には、地域の産業や子育て環境、交通網によるところが多いと感じる。子供の減少から学校規模が小さくなることは間違いないので、教育の機会均等をどのように支えていくかが重要と考える。</p> <p>⑰ 郡部の生徒は地元で高校がなくなると、通学困難（JR、路線バス）になる状況である。地域で将来の地域を担う人材を育てるという観点からも配置計画を考えてほしい。</p> <p>⑱ 地域の核となる学校＝高校という観点から、学級数維持は地域の生命線である。学級数の公表は慎重に考えてほしい。</p> <p>⑲ 地域の実情を考慮して計画されているようになってきたと感じている。</p> <p>⑳ 配置計画はそれぞれの地域の実態にあったものとしてほしい。新しい建物の高校へ集約しながら再編されることを望む。中間地点の高校に集約して、より充実した高校生活を送れる環境を作ってはどうか。大きく再編の方が効果的な再編になると思う。</p> <p>㉑ 地域感情、経済的事情は理解するが、ある程度の効率化はへき地といえども進めなくてはならない課題だと思う。</p>	<p>○ 高校配置の検討に当たっては、広域で多様な地域から形成される本道の特性を踏まえ、高校配置が地域に与える影響、高校に対する地域の期待や取組などを含め、地域の実情を十分考慮する必要があると考えています。</p> <p>○ 人口減少社会を迎える中、地域の教育機能を維持・向上させることは極めて重要な課題であり、特に郡部においては、自治体に一つの高校しか存在しない場合が多いことや、地理的状況等から再編が困難な場合があることなど、都市部と異なる状況があり、地域ごとの特性や実情を十分に考慮する必要があると考えています。</p> <p>○ こうしたことから、再編については、一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情などを考慮し、地理的条件から再編が困難な場合などには、地域連携特例校として存続を図ることとしています。</p> <p>○ 今後とも、高校配置計画の策定に当たっては、今後の中学校卒業生数の状況も踏まえた上で、都市部と郡部の違い、学校・学科の特性、生徒の進路動向、私立高校の配置状況などを総合的に勘案するとともに、地域の方々の御意見を丁寧に伺いながら検討を進めます。</p>
<p><b>【再編等（小規模校の役割）】</b></p> <p>㉒ 通う子供がいないため存続させることが難しいことは当たり前。魅力を感じる生徒や保護者が少ないという現実を直視しているとは思えない。</p> <p>㉓ 小さな学校だからできること、小さな学校でなければできないこともあり、こうしたニーズを踏まえ、数の理論だけではなく、高校の在り方について、地域と十分協議していただきたい。</p> <p>㉔ 学級減もやむを得ないと思うが、それぞれの高校が努力して特色ある教育を展開している。可能な限り存続することを基本として考えてほしい。</p> <p>㉕ 私の住む町には高校がなく、最寄りの高校まで35kmほどある。再編は中学生や町民にとっても大変重要な問題。小規模校の存続をぜひ進めていただきたい。</p> <p>㉖ 小規模校において、子供たちが少人数で切磋琢磨する場ができていいのか疑問。</p>	<p>○ 小規模校は、きめ細かな指導や地域と連携した取組など、特色ある教育活動を展開している一方で、教員が少ないことから、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程の編成や部活動に制約があることや、生徒同士が切磋琢磨する機会に乏しいといった課題もあると考えています。しかしながら、高校は、生徒や地域の実情などに応じて、特色ある教育活動を行うとともに、文化・スポーツ活動といった生涯学習の場として役割を担っており、地域の教育機能を確保することは重要であると考えています。</p> <p>○ 中学校卒業生数の減少が引き続き中で、一定規模の生徒及び教職員による活力ある教育活動を展開するには、高校の再編は避けて通れない課題ですが、再編整備を進めるに当たっては一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情なども考慮し、小規模校であっても、地理的条件などから再編が困難な場合には、地域連携特例校として存続を図ることとしています。</p> <p>○ なお、小規模校では、生徒の多様な学習ニーズに対応できるよう、相互に教員を派遣し教育課程の充実を図る「道立学校間連携」の取組や、小規模となった多様なタイプの学校において、「小規模総合学科</p>

<p>⑲ 小規模校の良さを認め、地域の教育文化の発展と活性化の重要な役割を担う地元高校の存続を基本とした配置になるよう希望する。</p>	<p>校等の高校魅力化推進事業」を実施し、地域の自然や産業等の教育資源を活用した取組を積極的に進めるなど、教育環境の充実に努めています。</p> <p>○ 今後とも、将来の本道や地域の発展に貢献できる人材の育成に向け、地域の方々の御意見などを十分伺いながら、適切な高校配置に努めます。</p>
<p><b>【私学・高専との関係】</b></p> <p>⑳ 少子化進行の中、私立高校や高専も含めた視野の広い計画が大切。</p> <p>㉑ 公立高校ではできない教育活動を根幹に据えた私立高校の存在は極めて重要。</p> <p>㉒ 今後も高専の定員見直しの動きを継続してほしい。</p> <p>㉓ 公立高校、私立高校ともに定員を抑制せざるを得ない。</p> <p>㉔ 郡部の公立高校は、定員割れしている高校が多いが、そこに多額の税金が投入されている。私立学校は長年にわたり、地元で教育を通じて地域貢献をしてきている。都市部と郡部の棲み分けを行い、公立と私立が共存共栄できる仕組みとしていただきたい。</p>	<p>○ 配置計画の策定に当たっては、地域別検討協議会で私学関係者からも御意見を伺うとともに、私立・公立高校関係者と知事部局及び道教委による「北海道公私立高等学校協議会」を設置し、中学校卒業者を踏まえた公私双方の入学定員の考え方などについて協議しています。</p> <p>○ また、公立高校の配置に当たっては、いわゆる高校標準法において、私立高校等の配置状況を十分考慮しなければならないとされていることから、私学所在学区ごとの私立高校の配置状況に配慮し、中学校卒業人数の状況に応じた一定の比率に基づく定員調整を行っています。</p> <p>○ 今後とも、私立高校などの関係者と十分協議しながら、適切な定員調整となるよう努めます。</p> <p>○ なお、高等専門学校の定員については、中学校卒業人数の減少を踏まえた定員調整に配慮していただくよう、高専等に対し要望しているところです。</p>
<p><b>【市町村立高校への移管等】</b></p> <p>㉕ 2次募集を行っても定員割れをしている高校は廃止すべき。貴重な道財源を赤字の学校に投入し続けるのは道民として理解できない。どうしても残したいのであれば、市町村立に移管すべき。</p>	<p>○ 人口減少社会を迎える中、地域の教育機能を維持・向上させることは極めて重要な課題であり、特に郡部においては、自治体に一つの高校しか存在しない場合が多いことや、地理的状况等から再編が困難な場合があることなど、都市部と異なる状況があり、地域ごとの特性や実情を十分に考慮する必要があると考えています。</p> <p>○ また、市町村から、高校を核とした地域振興や特色ある学校づくりを進めるため、道立高校から市町村立高校への移管の要望がある場合は、当該市町村と協議を進めることとしています。</p>
<p><b>【学級定員の引き下げ】</b></p> <p>㉖ 生徒が半分に減り、ニーズも多様化しているため、定員を40人から30人に減らす改善が必要。</p> <p>㉗ 働き方改革や生徒へのきめ細かな指導、成果を上げるためには、学級定員の見直しや少人数指導が必要。</p> <p>㉘ 40人の学級定員を見直すことが極めて重要。道独自の考え方を持してほしい。</p> <p>㉙ 学級定員を40人から35人にできるよう、国に対して継続して制度改正を求めてほしい。</p>	<p>○ 学級編制に係る国の定数改善が行われていない状況から、少人数学級の導入は、現段階では難しいものと考えています。</p> <p>○ これまでも、国の加配定数を活用し、少人数によるきめ細かな指導に努めてきており、今後も、少人数学級や少人数指導の推進など、個に応じた指導の充実や新たな教育課題に対応するための定数措置の拡充について、国に対し引き続き要望していきます。</p>
<p><b>【望ましい学校規模】</b></p> <p>㉚ 地域状況を踏まえ、良好な高校運営を行うためには、4間口規模がよい。</p>	<p>○ 学校規模については、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な個性を持つ生徒と出会うことにより、お互いに切磋琢磨する機会が得られる</li> </ul>

<p>③ 今後、少子化が進む中で、4～8学級が適正な規模であるのか考える必要があるのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習ニーズに応える多様で柔軟な教育課程が編成できる</li> <li>・より多くの教職員の指導により、多様な見方や考え方が学べる</li> <li>・生徒会活動や部活動が活性化し充実する</li> </ul>
<p>④ 生徒数や望ましい学校規模を理由に機械的に統廃合を進めることは、地域からの人口流出を招くことにつながる。地域の意見・要望をしっかりと反映させてほしい。</p>	<p>などの考え方から、可能な限り1学年4～8学級の望ましい規模を維持することとしています。</p>
<p>④ 中学生の激減期にあるため、指針で示されている望ましい学校規模の維持をしっかりと実施してもらいたい。</p>	<p>○ 今後も中学校卒業生数が大幅に減少することが見込まれることから、生徒の学習環境の充実や地域・学校の実情等を考慮しながら高校の再編整備を進める必要があると考えています。</p>

<input checked="" type="checkbox"/> 高校配置計画の策定 <input type="checkbox"/> 学区ごとの状況	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p><b>【空知南】</b></p> <p>① まちづくりや公共交通路線維持には高校の存在は欠かせない。交通状況や学区の見直しを行ってから配置計画の検討を行っても遅くはないので、南幌高校の募集停止を見直してほしい。</p>	<p>○ 小規模校ではきめ細かな指導や特色ある教育活動が行われていると認識しておりますが、中学校卒業生数の減少が引き続き見込まれる中、一定規模の生徒や教職員による活力ある教育活動を展開していくためには、高校の再編は避けて通れない課題であると考えています。</p> <p>○ 南幌高校においては、地元からの進学率が低く、恒常的な欠員が生じており、今後も入学者数の増が見込まれない状況などを総合的に勘案し、平成33年度から生徒の募集を停止することとしています。</p> <p>○ また、募集停止とした場合にあっても、空知南学区の平成33年度の生徒定員は中学校卒業生数を上回る見込みであることや、南幌町内から空知南学区や隣接する石狩学区の高校へ公共交通機関により通学可能であることなどから、生徒の修学機会を確保されていると考えています。</p>
<p><b>【空知北】</b></p> <p>② 定員割れをしていない滝川高校でなぜ学級減を行うのか。</p>	<p>○ 空知北学区では、平成33年度の中学校卒業生数が、学区全体で82人、滝川市で29人の減少が見込まれ、滝川西高校で定員調整を行った今年度と比べても、学区全体で178人、滝川市で39人減少することや、学区全体の5割の中学校卒業生が滝川市内の高校へ進学している状況、平成20年度以降、滝川高校で定員調整を行っていない状況、学区内の高校の配置状況などを総合的に勘案し、滝川高校で1学級の減を行うこととしています。</p>
<p><b>【石狩】</b></p> <p>③ 石狩学区は受検できる学校が大きく広がっていることを踏まえ、市区ごとの地域の子供だけではなく、広い視点で定員調整を検討してほしい。</p>	<p>○ 定員調整については、市や区ごとの中学校卒業生数の状況のほか、生徒の進路動向や学校規模、これまでの定員調整の経緯、私立高校の配置状況などを総合的に勘案しながら検討してまいります。</p>
<p><b>【後志】</b></p> <p>④ 岩内高校の学科転換及び単位制導入が示されたが、岩内高校への進学を希望する生徒も増えると思うので、小学生やその保護者に対しても資料を用意していただき、単位制を周知する取組をお願いしたい。</p>	<p>○ 毎年度、多様なタイプの学校を紹介したパンフレットを作成し、市町村教育委員会や中学校等へ配布するとともに、高校教育課のホームページに掲載しています。</p> <p>○ また、道教委の広報誌「ほっとネット」を活用し、より多くの道民の方々に、多様なタイプの学校の特色等について周知しています。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後とも、中学生や保護者の方々が、多様なタイプの高校の特色等を一層理解できるよう、積極的な情報提供に努めます。</li> </ul>
<p><b>【胆振西】</b></p> <p>⑤ 平成34年度に中学校卒業生数の増加が見込まれているにもかかわらず、なぜ33年度に学級減となるのか。3学級規模となれば、将来的な高校の存続に影響を与えると懸念している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 胆振西学区では、平成33年度の中学校卒業生数について、学区全体で127人、室蘭市で24人、登別市で31人、伊達市で54人の減少が見込まれ、公私比率を勘案すると、学区全体で2～3学級相当の調整が必要な状況であり、これまでの定員調整の経緯や欠員の状況、私立高校の配置状況などを総合的に勘案し、登別青嶺高校及び伊達緑丘高校で1学級の減を行うこととしています。</li> <li>○ 第1学年3学級の高校であっても、教育課程編成の工夫改善などを通じて、引き続き教育環境の充実に努めるとともに、当該校が所在する地域に複数の公立高校が配置されている場合は、学校の再編など、望ましい高校配置の在り方について、地域と十分に協議を重ねながら検討してまいります。</li> </ul>
<p><b>【胆振東】</b></p> <p>⑥ 職業高校出身の生徒は、地域産業で働く力となっているため、職業高校の学級数を減らすことは、地域産業の衰退を招く危険がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職業学科を有する学校は、本道の産業に寄与する有為な人材を育成するための専門的な教育を行っており、地域産業の担い手育成のためにも重要な役割を果たしていると認識していますが、中学校卒業生数が減少する中においては、職業学科においても、定員調整や再編は避けて通れないものと考えており、学区内や苫小牧市内の中学校卒業生数の減少、これまでの定員調整の経緯などを総合的に勘案し、苫小牧総合経済高校で1学級の減を行うこととしています。</li> </ul>
<p><b>【日高】</b></p> <p>⑦ 中学校卒業生数だけで学級数を決定せず、地域の事情なども考慮していただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校配置計画の策定に当たっては、今後の中学校卒業生数の状況を踏まえた上で、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況などを総合的に勘案し、地域の実情を十分考慮しながら、検討してまいります。</li> </ul>
<p><b>【渡島】</b></p> <p>⑧ 函館中部高校は、函館市の中心にあって子供たちの通学にとっては、非常に便が良いと思われるが、函館中部高校で1学級減となる合理的な説明をお願いしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 渡島学区では、平成33年度の中学校卒業生数が、学区全体で197人、函館市で129人の減少が見込まれ、公私比率を勘案すると、函館市内での1学級の定員調整が必要な状況です。</li> <li>○ 函館中部高校については、市内の高校の学校規模や定員調整の経過、学校・学科の配置状況などを総合的に勘案し、1学級の減を行うこととしています。</li> </ul>
<p><b>【檜山】</b></p> <p>⑨ 通学の時間や家庭との連携等の面で、地域のそばに学校がないことの困難さを痛感しており、高校が地元から遠く離れば更に負担が増すこととなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校配置の検討に当たっては、通学事情や学校・学科の配置状況、地域に与える影響など、地域の実情を十分考慮する必要があると考えており、地理的条件から再編が困難な場合などには、地域連携特例校として存続を図ることとしています。</li> <li>○ また、高校生の修学を支援するため、地元市町村が独自に行っている通学費の補助等に対する財政措置について、国に対して要望しており、今後とも、北海道の広域性に配慮した財政措置の一層の充実が図られるよう、引き続き国に対して強く働きかけてまいります。</li> </ul>

<p><b>【上川南】</b></p> <p>⑩ 平成34年度から37年度までに、3から4学級の調整が必要と説明があったが、一律に順序で調整していくのではなく、どの学校を残すことが子供たちにとって効果的なのか、将来的に良いのか検討した上で考えていただきたい。</p>	<p>○ 高校配置計画の策定に当たっては、毎年度、計画案の策定前と策定後の2回にわたり、地域別検討協議会を開催し、様々な御意見をいただくほか、地域から要望があった場合などは、地元主催の説明会にも出向くなどして、道教委の考え方について説明を行っています。</p> <p>○ 道教委では、中学校卒業生数の減少が続く中で、高校配置の在り方などについて、地域の保護者や関係者の方々の理解を深めていただくことが、何よりも大切であると考えており、今後とも、検討に必要な情報を早期に提供し協議するなど、適切な高校配置となるよう努めます。</p>
<p><b>【上川北】</b></p> <p>⑪ 名寄市内の高等学校の再編統合について、校舎の活用方法などを含め、平成35年度の再編統合に向けた具体的な協議について、地元の意向を考慮しながら進めていただきたい。</p>	<p>○ 中学校卒業生数の減少が今後も見込まれる中、高校配置の在り方について、地域の関係者の方々が主体的に検討を進めていただくことが大切であると考えており、地元の検討会等における議論を踏まえながら、望ましい高校配置の在り方について検討してまいります。</p>
<p><b>【留萌】</b></p> <p>⑫ 留萌管内は縦長で、距離的に非常に良い高校配置となっている。この配置を崩さないよう、道教委・市町村ともに工夫が必要。</p>	<p>○ 本道は広域で多様な地域から形成され、それぞれの地域事情も大きく異なっており、都市部と郡部では、学校・学科の配置状況や通学事情、地域との関わりなどの面で相違があるほか、人口減少が及ぼす影響の度合いも異なることから、高校の配置を検討するに当たっては、こうした地域の実情を十分考慮する必要があると考えています。</p>
<p><b>【宗谷】</b></p> <p>⑬ 定時制課程は義務教育校時代の不登校児童生徒が学び直しており、まさに「セーフティネット」の役割を果たしていることから、今後も維持・存続してほしい。</p>	<p>○ 高校における教育水準の維持を図る観点から、定時制課程においても一定規模の生徒の集団が必要であると考えており、中学校卒業生数の減少が続く中、第1学年の在籍者が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込めない状況となった場合は、再編整備を行うこともやむを得ないと考えています。</p> <p>○ なお、定時制課程においては、勤労青少年をはじめ、他の高校を中退し改めて入学した生徒や、再び高校での学習を希望する社会人など、様々な志望動機や学習歴を持つ生徒が学んでいると認識しており、今後とも、それぞれの地域の実情等を十分考慮するとともに、様々な機会を通じて、配置に関する道教委の考え方を丁寧に説明し、保護者や地域の方々の御意見を十分伺いながら適切な配置となるよう検討してまいります。</p>
<p><b>【オホーツク中】</b></p> <p>⑭ 北見緑陵高校には欠員がないのに、なぜ学級減となるのか。平成34年には中学校卒業生数が増加する状況も踏まえて検討していただきたい。</p>	<p>○ オホーツク中学区では、平成33年度の中学校卒業生数が、学区全体で100人、北見市で71人の減少が見込まれ、公私比率を勘案すると、北見市内での1学級の定員調整が必要な状況です。</p> <p>○ 北見緑陵高校については、学校・学科の配置状況やこれまでの定員調整の経緯、私立高校の配置状況などを総合的に勘案し、1学級の減を行うこととしています。</p> <p>○ 第1学年3学級の学校であっても、教育課程編成</p>

	<p>の工夫改善などを通じて、引き続き教育環境の充実に努めるとともに、学校の再編など、望ましい高校配置の在り方について、地域と十分に協議を重ねながら検討してまいります。</p>
<p><b>【オホーツク東】</b></p> <p>⑮ 大空町では、少子化の影響で高校統廃合などの課題があるが、高校がなくなることは大きな不安であるため、町立であったとしても高校が町に残ることを強く希望する。</p>	<p>○ 地元市町村から、高校を核とした地域振興や特色ある学校づくりを進めるため、道立高校から市町村立高校への移管の要望がある場合は、当該市町村と協議を進めることとしており、大空町からの要望を踏まえ、女満別高校と東藻琴高校を再編統合し、町立全日制の新設校の設置などについてお示したところです。</p> <p>○ 今後においても、円滑な再編統合やその後の教育環境の充実が図られるよう大空町と協議を行うほか、魅力ある高校づくりに向けて、町の取組に必要な協力を行ってまいります。</p>
<p><b>【オホーツク西】</b></p> <p>⑯ 学校を核とした地域づくりが町を元気にし、町の存続につながっていく。費用対効果という言葉もあるが、表に見えない効果もあるので、生徒が1人でも多く地元に残るよう、学級数は現状維持としていただきたい。</p>	<p>○ 人口が減少する中であっても、高校はそれぞれの地域の実情に応じて適切にその役割を発揮していくことが大切であり、今後も、地元市町村や地域の方々の協議などを通じ、人口減少が地域に及ぼす影響や課題について認識を共有しつつ、地域ごとの特性や実情、高校に対する地域の期待なども十分考慮しながら、適切な高校配置に努めます。</p>
<p><b>【十勝】</b></p> <p>⑰ なぜ帯広柏葉高校での学級減なのか。平成34年度は帯広市内の中学校卒業生数が増える状況もあるので、今後の配置計画では加味していただきたい。</p>	<p>○ 十勝学区では、平成33年度の中学校卒業生数について、学区全体で110人、帯広市で75人の減少が見込まれ、公私比率を勘案すると、学区全体で2～3学級相当の調整が必要な状況であり、これまでの定員調整の経緯や学校規模、私立高校の配置状況、34年度以降の中学校卒業生数の状況などを総合的に勘案し、帯広柏葉高校で1学級の減を行うこととしています。</p>
<p><b>【釧路】</b></p> <p>⑱ 釧路地区の特性を考えたときに、小規模校や職業高校をなくしてしまうという方向には反対。小規模校でも地域の人材育成機関として存続してほしい。</p>	<p>○ 一定規模の生徒及び教職員による活力ある教育活動を展開する観点から、可能な限り第1学年4学級から8学級を望ましい学校規模として、再編整備を進めることを基本としていますが、これまで同様、一律に再編を進めるのではなく、本道の広域性や学校・学科の配置状況、生徒の進路動向といった地域の実情などを十分考慮する必要があり、第1学年3学級以下の学校であっても、地理的状況から再編が困難な場合などには、地域連携特例校として存続を図ることとしています。</p>
<p><b>【根室】</b></p> <p>⑲ 中標津高校の学級減については、少子化のためやむを得ない。中標津農業高校との共存を目指し、特色ある教育活動の充実を図るとともに、小中高が連携しながら町の子供たちの教育を考えていきたい。</p>	<p>○ 高校配置計画は、高校進学希望者数に見合う定員を確保することを基本に策定しており、中学校卒業生数の減少が引き続き見込まれる中においては、職業高校を含めた高校の定員調整や再編は避けて通れないものと考えていますが、道教委としては、今後も、経済社会の変化に対応した人材育成に向けて教育環境の整備に努めながら、地域の関係機関や産業界等との連携の下で、実践的な教育活動を推進するとともに、産業技術の進展や地域産業の特性等を踏まえた職業学科の配置について検討してまいります。</p>

■ 職業学科の充実	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p><b>【職業学科の配置の在り方】</b></p> <p>① これからの人口減少社会において、工業や農業などの職業学科の人材が即戦力として大切になってくる。普通科と職業学科をきちんと分けて考え、職業学科のビジョンを持ってそれぞれの地域で対応していただきたい。</p> <p>② 中学校卒業者数の減少があることは理解できるが、情報処理や流通など専門性を深める職業学科の減少は地域経済にとって非常に大きな痛手である。地域経済を守る立場からは職業学科の現状維持をしていただきたい。</p> <p>③ 人口減少対策、地域経済活性化対策、雇用対策、人材確保の面からも地域産業と密接に連携したカリキュラムや職業学科への転換を検討し、地域と共生する高校づくりが必要である。</p>	<p>○ 職業学科においては、専門分野の基礎的・基本的な知識・技能をはじめ、より実践的な技術を習得させるとともに、大学や研究機関、地元企業などと連携し、商品開発やものづくりに取り組むなど、実践的な教育活動を通して本道の産業を支える人材を育成しています。</p> <p>○ こうした職業学科においては、地域の方々の要望や地域産業の特性、各学校の実情などを考慮し、これまで職業学科の再編整備や学科転換を行ってきましたが、中学校卒業者数の減少が引き続き見込まれることから、職業学科を含めた高校の定員調整や再編について慎重に検討してまいりたいと考えています。</p> <p>○ 生徒の多様な学習ニーズに対応して、地域産業との関わりなど、地域の特性を生かした魅力ある高校づくりを進め、本道の持続的な発展に寄与する人材を育成できるよう、地域の方々の要望等を十分に伺いながら、社会の変化に対応した学科構成等について検討します。</p>

■ 高校における特別支援教育の取組	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p><b>【高校における特別支援教育の取組】</b></p> <p>① 高校の特別支援教育の制度の充実、例えば通級や高校の特別支援学級の設置などをお願いしたい。特別な支援を要する生徒のための教職員の研修も必要である。</p> <p>② 多様な人が生きやすい社会のためにインクルーシブ教育の充実をお願いしたい。</p>	<p>○ 障がいのある生徒の道立高校への受入れについては、高校の目標を達成するための一定の学力があること、日常の学校生活を送る上で大きな障がないことなどを踏まえて、校長が判断しています。入学者選抜における特別な配慮や入学後の施設・設備の整備などについて、生徒、保護者、中学校と事前に十分相談をして、対応しています。</p> <p>○ 特別支援学校との連携や校内研修等を通じて、高校の教員が障がいに対する理解を深めるとともに、障がいの特性に応じた教科指導などを行えるよう、個別の教育支援計画や指導計画の作成とそれに基づく個別指導等の工夫や、「特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業」等の積極的な活用により、高校に入学した障がいのある全ての生徒への教育の充実に努めています。</p> <p>○ 今年度、高校における通級による指導は、国の指定校事業を受けていた4校で実施しています。実施校4校の通級指導担当教諭を校内研修等の講師として各校に派遣するなどして、通級による指導の理解促進に努めます。</p> <p>○ 国に対しては、道立高校における特別の教育課程編成の導入、定数措置の改善、通級指導教室の設置など制度的な整備、特別支援教育支援員の配置に要する財源措置の充実について、要望しています。</p> <p>○ 高等学校における特別支援教育の在り方を検討するため、外部有識者等で構成する検討委員会を設置し、地域特性を踏まえたインクルーシブ教育システムの構築や、通級指導教室及び特別支援学級の必要性とその役割などについて、平成29年3月に意見を</p>

	<p>取りまとめました。          今後は、こうした検討の状況などを踏まえ、高等学校における特別支援教育の一層の充実に取り組みます。</p>
--	--

■ 通学費等への支援	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p><b>【遠距離通学費等補助制度の見直し】</b>            ① 遠距離通学費等補助制度の年限を撤廃してほしい。</p>	<p>○ 遠距離通学費等補助制度は、平成20年度以降の道立高校の募集停止に伴い、地元から高校がなくなり遠距離通学等となる場合において、通学費や下宿費等に係る経済的負担を軽減し、生徒の修学機会を確保することを目的に激変緩和措置として創設したところであり、従前から高校のない市町村に居住する生徒との均衡などを考慮し、補助期間については募集停止後5年間としています。</p> <p>○ 補助額については、平成21年度までは通学費等の月額実費負担額が13,000円を超える額を補助していましたが、保護者の負担軽減のため、平成22年度からは10,000円を超える額を補助しています。</p> <p>○ なお、北海道高等学校奨学会が実施する奨学金制度では、道立高校の募集停止により通学区域内の他の高校に就学する者を対象として、期限を設けずに奨学金の上限額の引き上げを行っています。          こうした制度についても一層の周知を図り、修学機会の確保に努めます。</p>

■ その他	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p><b>【地域への説明等】</b>            ① 地域の教育委員会と連携を図り、地域の学校としてどうしていくか、将来的な展望を話し合い、地域の人に理解していただく必要がある。</p> <p>② 地域の声を直接聴く、直接説明する機会を現在よりも更に多く設けるなど丁寧な対応をお願いしたい。</p>	<p>○ 高校配置計画の策定に当たっては、各通学区域において、計画案の策定前と策定後の2回にわたり、地域別検討協議会を開催しています。</p> <p>○ 第1回目の協議会では入学者選抜における入学状況、生徒の進路動向、今後の中学校卒業生数の見込みなどを説明し、第2回目では計画案の考え方などについて説明し、地域の方々から御意見を伺っています。</p> <p>○ また、地域から要望があった場合などは、地元主催の説明会にも出向くなどして、道教委の考え方について説明を行っています。          今後とも、地域の方々からの御意見を伺いながら、検討を進めます。</p>
<p><b>【地域別検討協議会】</b>            ③ 学校長やPTA会長だけではなく、もう少し範囲を広げ、希望する保護者からの意見を求めるべき。</p> <p>④ 経済界からの出席が必要と考える。特に高校は社会に直結する部分があり、どのような人材を育成すべきかについての考えを聞くことも必要と考える。</p>	<p>○ PTA関係者の中には、新年度から新たに役職に就かれた方も多ことから、全体会の前に高校配置計画策定の基本的な考え方や、特色ある高校づくりなどについて説明を行い、理解を深めていただくため、全体会に先がけてPTA分科会を設けています。</p> <p>○ 今年度の協議会から、いただいた意見やアンケート等を踏まえ、人材育成や高卒者の就労の状況など、幅広く地域の意見を伺うことが期待されることから、新たに、経済団体関係者を参加対象者としました。</p>
<p>⑤ 事前に質問を受け、それに対する回答を説明に加えてほし</p>	



い。	
⑥ 再編整備計画のある管内は年2回の開催が必要と考えるが、そうでなければ1回が良いのではないか。	○ 今回の協議会では、地元からの要望を踏まえ1会場で夜間開催としました。
⑦ 日中は休みをとれない保護者もいるため、夜間など複数回の実施をお願いしたい。学校関係者としては夏季休業期間中に開催していただきたい。多くの方が参加できる日時が良いのではないか。PTAの方々の要望があれば、土日や夜間の開催も良いと思う。	○ また、PTA関係者からの要望を踏まえ、資料の内容などについて意見や質問がある場合は、事前に意見シートを提出いただくこととしております。 ○ 今後も開催日時や場所の見直しのほか、運営方法や資料内容などについて、会場でいただいた御意見なども参考にしながら、地域別検討協議会の工夫・改善に努めます。
⑧ 小・中学校の代表者は、全市町村からではなく、各学区から数名でも良いのではないか。	
⑨ 中学校卒業生数の減少が止まらない状況なので、年度の早い時期に協議会を開催していただきたい。	